

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【公表番号】特表2015-530087(P2015-530087A)
 【公表日】平成27年10月15日(2015.10.15)
 【年通号数】公開・登録公報2015-064
 【出願番号】特願2015-529031(P2015-529031)
 【国際特許分類】

C 1 2 P 21/08 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

C 4 0 B 40/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 P 21/08 Z N A

C 0 7 K 16/28

C 4 0 B 40/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年8月9日(2017.8.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

種間標的交差反応性を有する抗体分子を産生するための方法であって：

- a. 第1の種由来の標的抗原に特異的な第1の免疫ライブラリを作製すること；
 - b. 鎖シャッフリングプロトコルにおいて、該第1の免疫ライブラリ由来の可変領域を組み合わせ、第2の免疫ライブラリを産生すること；
 - c. 該第2の免疫ライブラリ中で、該標的抗原に対して及び第2の種由来の対応する抗原に対して反応性である抗体分子を特定すること；
- を含み、該第2の種は、該第1の種とは異なり、

該第1の免疫ライブラリが、該第1の種由来の該標的抗原で感染させた第3の種の動物から得られ、かつ該第3の種は、ヒトではなく、かつ

ステップb.の該鎖シャッフリングプロトコルにおいて使用される該可変領域が、一個体の動物から得られる、

前記方法。

【請求項2】

前記第1の種と前記第3の種とが同一である、請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記第1の種と前記第3の種とが異なる、請求項1記載の方法。

【請求項4】

前記第1の種が、ヒトである、請求項1又は3記載の方法。

【請求項5】

前記第3の種が、ラクダ科に属する、請求項1から4のいずれか1項記載の方法。

【請求項6】

前記第3の種が、ラマである、請求項5記載の方法。

【請求項7】

前記第2の種が、げっ歯類である、請求項1から6のいずれか1項記載の方法。

【請求項 8】

前記第2の種が、マウスである、請求項7記載の方法。

【請求項 9】

前記第2の種が、ヒト以外の霊長類である、請求項1から8のいずれか1項記載の方法。

【請求項 10】

前記第2の種が、カニクイザルである、請求項9記載の方法。

【請求項 11】

前記第1の種が、ヒトであり、かつ、前記標的抗原が、ヒトIL22Rである、請求項1から10のいずれか1項記載の方法。

【請求項 12】

前記第3の種が、ラクダ科に属する、請求項11記載の方法。

【請求項 13】

前記第2の種が、げっ歯類である、請求項12記載の方法。

【請求項 14】

前記第2の種が、マウスである、請求項13記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

本発明は、種間標的内交差反応性を有する抗体分子を産生するための方法であって、以下のステップを含む前記方法を提供することによって、この必要性に対処する：

- a. 第1の種由来の標的抗原に特異的な第1の免疫ライブラリを作製すること；
- b. 鎖シャッフリングプロトコルにおいて、第1の免疫ライブラリ由来の可変領域を組み合わせ、第2の免疫ライブラリを産生すること；
- c. 第2の免疫ライブラリ中で、標的抗原に対して及び第2の種由来の対応する抗原に対して反応性である抗体分子を特定すること(ここでは、第2の種は、第1の種とは異なる)。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

現在、鎖シャッフリングを使用して、特定の望ましい種間標的内交差反応性を有する抗体分子を産生可能であることが発見されている。したがって、その最も一般的な範囲では、本発明は、種間標的内交差反応性を有する抗体分子を産生するための方法であって、以下のステップを含む前記方法に関する：

- a. 第1の種由来の標的抗原に特異的な第1の免疫ライブラリを作製すること；
- b. 鎖シャッフリングプロトコルにおいて、第1の免疫ライブラリ由来の可変領域を組み合わせ、第2の免疫ライブラリを産生すること；
- c. 第2の免疫ライブラリ中で、標的抗原に対して及び第2の種由来の対応する抗原に対して反応性である抗体分子を特定すること(ここでは、第2の種は、第1の種とは異なる)。